



平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業
推進校実施報告書

- 1 学校名 : 広島県立五日市高等学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 1 月 20 日 (金)
- 3 対象 : 1 年生女子 25 名、1・2 年生男女バレーボール部員 37 名
- 4 派遣オリンピックアン : 山本隆弘さん (バレーボール 北京オリンピック日本代表)
- 5 授業内容 : 講演

2017 (平成 29) 年 1 月 20 日に広島県立五日市高等学校にて、北京オリンピック (2008 年) のバレーボール日本代表であり、現在は V リーグの排球大使 (アンバサダー) として様々な活動をされている山本隆弘さんをお招きし、約 60 名の生徒を対象に「夢・目標に向かって～挑戦することの大切さ～」というテーマでご講演いただきました。

はじめに山本さんは、中学校の時に友だちに誘われてバレーボールをはじめ、部員が 2 名しかいない時期もあったものの、「楽しい」という思いに支えられ、毎日工夫して練習をしていたと、バレーボールを始めたころのエピソードをお話しされました。その後、バレーボールの強豪高校へ進学をしてさらに練習に励む中で、出身の鳥取県からバレーボールでオリンピックに出た人はいないと聞いたことから、バレーボール選手としてオリンピックを目指すことを決意し、それまで以上にどうしたらオリンピックに出ることができるのかを常に考え、短期目標・中長期目標を細かく決めて練習に励んだと言います。

また、大学時代には半年間バレーボールを辞めてしまったことや、パナソニック入社後には肩の怪我で選手生命が危ぶまれたこと、また日本人初のプロ選手になってからも、結果を残せず一度は代表から外されたことなど、数度の挫折を経験されたものの、『「志」あるところに道ありき』という思いを胸に、決して諦めずに夢を追い求めつづけた結果、北京オリンピックに日本代表として出場するに至ったと、ご自身が歩んできた決して平坦ではない道のりを語られました。

こうした経験から、講演を聞く高校生に向けては、自分で目標をたて、どうありたいのかをよく考えながら大事な場面で自分にとって良い選択をしていくことの大切さを伝えられたほか、来る 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックでは、選手として出場を目指す、あるいはボランティアなどそれぞれの形で携わり、日本中でオリンピック・パラリンピックを盛り上げてほしいとお話しされました。

講演を聞いた高校生からは事後のアンケートにおいて早速、「2020 年東京オリンピックで行われることになった空手で選手として出場したい」という目標を掲げる生徒が見られたほか、「部活動を続けようか悩んでいたけど、自分に打ち勝って頑張ろうと思った」など、夢や目標に向かって、壁にぶつかっても乗り越えていきたいという旨の感想が多く挙げられました。

6 授業の様子



「夢・目標に向かって～挑戦することの大切さ～」をテーマにご講演された山本隆弘さん



バレーボール部員からの質問にも身振りを交えながら具体的にお答えされていました



山本さんの座右の銘である『「志」あるところに道ありき』というメッセージから、多くの生徒が夢や目標を持つことの大切さを学んだようでした。